
泡沫の夢

夏木 岳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泡沫の夢

【Nコード】

N1182B

【作者名】

夏木 岳

【あらすじ】

綺麗な風景の中、俺ア猫さんと話してた。どんなやつより、猫さんのほうがよっぽど良い奴だったぜ。

(前書き)

完全に主人公「俺」の「語り」です。

見ろよ、綺麗だぜ。紅葉がよう。そんなくせして、山頂は雪化粧と
きたもんだ。珍しいったらありやしねえ。

お、猫さんよ、あんたもこの景色見に来たんかい？なんでい、俺の
飯が目当てかい。いいぜ、ほら。沢庵ならやるよ。おお、具の鮭も
持っけて持ってけ。米だけは俺んだ。

おいおい、あんた、猫またとかいうやつだろ？言葉がわかるんなら
返事くらいしたらどうだい。まったく、感謝しろよ。俺あ滅多に飯
なんて分けてやんねえんだからよ。

お、やっと口開きやがったな。鮭くわえてたから喋らねえってあん
た、行儀が良いんだか悪いんだかわかんねえなあ。

：ははは、その通りだ。あんたに人なんかの行儀語ったって、関係
ねえもんだな。まったくもって迷惑な話だったか。ははは、まった
くその通りだ。悪いっ！

はあ。俺ア、こんなに喋ったんは久しぶりだ。なんせよ、どいつも
こいつも話を聞きやしねえ。いやいや、耳でしか聞いてねえんだよ。
俺の話を心にも止めねえなんとも無粋な連中だぜ。

比べて猫さんよ、あんたア、しっかり聞いてやがる。まあ鮭の話は
置いとけ。

あん？なんで話を聞かねえんだってか。誰も彼も、俺に菓をくれと
か言いやがるんだぜ。

少し昔話してやるよ。

俺ア、ガキン頃、変な草を混ぜて粉末の薬を作ったよう。まあガキのままごとみてえなもんだ。だがよ、それを吸っちゃった一人の大人が三日三晩意識を失ってな。散々怒鳴り散らされてど突きまわされたもんだ。でもよ、そいつ顔は最高に幸せそうだったもんだから作っちゃったんだ、新しいのを。それも違う材料でな。

その“薬”ってのはよ、大根をすり下ろして千切った和紙と混ぜるとか、爪の垢を笹の葉と一緒に燻すとか、なんとも適当なので出来ちゃうんだ。

でな、気付いたんだよ。どうも俺ア、その薬を作る勘みてえのがあるらしくてよ、俺しか作れねえってこった。

でな、若けえころ、それも二十歳んときに家計が火の車でよ、働いても働いても金が消えてくときがあつてな。そんなときにやめときゃよかったものよ。俺アまた薬を作って売っちゃったんだ。少し値を張ってな。

それから俺ア今まで金に苦労してねえのよ。どうも麻薬みたいな体に悪いこともなけりや、法に引っ掛かるわけでもねえからよ、金持ちが見たことねえ額で薬を買ってくれたんだよ。

でよう、そのときやつと聞き出したんだがな。その薬のんだ三日は、夢を見続けるらしいんだ。

：いやいや、自分で飲むなんて恐ろしくて出来やしなかったよ。俺の勘が危険だって叫んでんだよ。

なに話したっけな。おいおい猫さんよ、俺アまだ六十だぜ。ぼけてはいねえさ。

そうだ、夢を見るんだったな。その夢ってのはな、どうも現実にはねえ。なんだ。理想の夢らしいんだ。仕事が上手くいく。憧れのあの娘が笑ってくれる。

猫さんよ、あんたの言う通りだ。俺も金持ちに言ってやったよ、そうやってな。

所詮は夢でな。覚めちまえば落ち込むんだが、作られた夢をバネにこれからを頑張ろうなんてよ、そんな馬鹿な話があったたまるか。

ああ、猫さんよ、あんたア、やっぱり話を聞いてやがる。俺ア、それでも薬を作ったんだよ。金の為にな。

どうよ。

金の為に自分の言い分押しつけてよ。金の為だけに自分を曲げてよ。格好悪い人生だぜ。

：なんで、猫さんよ。あんたア、人の心が読めるってかい？ そうだよ。その薬使って、一度だけ心から満足したことがあるんだぜ。

病院によ、小せえ男の子と女の子がいてよ。

その子たちの為に使ったんだよ。そいつらよ、まだ年端もいかなえガキのくせしてよ、俺の薬が作る夢は見れても、それをバネにする“これから”ってもんがなくなてな。そう、猫さんの言う通り労咳（肺結核の古風な言い回し）だよ。なんでこんな子が死ななきゃなんねえんだって、不条理さにはいつだって慣れねえもんだな。

猫さんよ、あんたもそう思うんだろ？

でよう、俺アその子らが長くねえって思ったとき、薬を飲ませてやったんだよ。もしかしたら治んねえかな、意味わかんねえ薬だしな、とか淡い期待を下らねえくらい頭にかすめてな。

やっぱり2人とも死んだよ。飲んだ三日後にな。

でもよ、俺ア死ねて幸せだと思ったぜ。もう覚めることもねえしな。2人の顔かい？青白くてよ、唇に血がこびり着いててよ、目は窪んでんのにだぜ。今まで生きて来て見た中で、最高の笑顔だったぜ。

これからの希望の無え、無間地獄に墜ちてくあいつらに笑顔になってくれただけの話さ。自己満足かもしれねえ。それでも、俺ア胸張って言ってやるよ。俺ア良いことをしたってな。短くても笑って死ぬる人生にしてやったんだ。娯楽に使う金持ち共より随分マシだぜ。

なんだい猫さんよ、あんた泣いてんのかい？え？乙女心って、あんな女の子だったんかい。いやあ、すまねえな。俺アてつきり同類かと思ってたよ。ああ、猫さんよ、ほんとにすまねえ。俺アもう行かなきゃならねえ。見ろ、あの車。でかいだろ？俺を追っかける為だけに作られたんだぜ。どいつもこいつも、一時期の夢を自分の為に使おうと、必死こいて作ったらしいぜ、あれ。

悪いな猫さんよ。もう行っちゃまうなんて。俺ももう少しゆっくりしたかったぜ。元気でやれよ。また誰かの話でも聞いてやれよ。

：なんでえ猫さんよ、あんた、嬉しいこと言ってくれるじゃねえか。その言葉、俺ア忘れねえぜ。そうだ、もし次会ったら旨いもんでも食わしてやるよ。

じゃあな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1182b/>

泡沫の夢

2010年12月30日02時24分発行